

第十七回 たかさき薪能 灯火・室内能

日時／平成十四年九月十三日(金)

午後四時半開場・午後五時五十分開演(午後五時半より演目解説)

会場／群馬音楽センター



たかさき  
薪能

能 橋舟慶 観世流 川原 恵三他  
狂言 萩 大名 大藏流 山本泰太郎他  
仕舞 富士太鼓 観世流 藤波 重満  
能 杜 若観世流 下平 克家他

主催 高崎市・(社)高崎観光協会

お問合せ ☎027-321-1257

後援 高崎商工会議所

観覧券発売中

A 席 ¥5,000(当日券¥5,500)  
B 席 ¥3,000(当日券¥3,500)  
自由席 ¥1,000(当日券¥1,500)

プレイガイド

高崎駅構内観光案内所・高崎市文化会館  
群馬音楽センター・高島屋・スズラン  
ラジオ高崎・高崎観光協会

# 演目解説

## 能 橋弁慶

武蔵坊弁慶が、五条の天神参りをしようすると、従者が五条の橋には最近得体の知れない少年が現れ、人を斬るという話があるので思いとどまるように言う。弁慶は少年を討ち取る決意で橋に向い、明日は鞍馬寺に入ることになっている牛若丸も、今夜は名残りと五条の橋へ出かける。ふたりは激しく斬り合いをするが、牛若丸の早わざに弁慶は抗せず、降参する。

## 能 杜若

諸国一見の僧が、三河国八橋の沢辺に映き乱れる杜若に見とれていると、杜若の精が現れ、業平の東下りの杜若をめぐる話を語る。女は業平の冠と二条の後の唐衣を着て、僧の前にふたたび現れ、業平の女人遍歴、とりわけ二条の後への思慕の情も、衆生済度のわざであったと言ひ、舞を舞い、草木成仏の御法によって自らも成仏することを暗示しつつ消える。

## 狂言 萩大名

大名が、ある庭の萩を見に行くことになり、歌を所望された時の用意に、萩を詠みこんだ和歌を、太郎冠者に教えてもらって出掛ける。しかし庭をほめそこなったあげく、歌を詠むこともできず、最後の七文字を思いだせず、思いだしても言いそこなってしまった。



能「杜若」



能「橋弁慶」

# 演者及びスケジュール(予定)

17:30 演目解説 (20分)  
下平克宏

17:50 あいさつ (10分)

18:00 能 橋弁慶 (40分)

シテ (武蔵坊弁慶)	川原 恵三	
子方 (牛若丸)	松本 崇俊	
トモ (従者)	小檜山浩二	
間狂言 (都人)	山本 剛孝	
	山本 剛秀	
後見	武田 尚浩	大松 洋一
笛	寺井 宏明	
小鼓	幸 信吾	
大鼓	柿原 光博	
地謡	松木 千俊	木原 康之
	藤波 重彦	藤波 重孝
	新江 和人	金子 聡哉

18:40 狂言 萩大名 (25分)

シテ (大名)	山本泰太郎
アド (太郎冠者)	山本 剛重
アド (主人)	遠藤 博義

19:05 休憩 (15分)

19:20 仕舞 富士太鼓 (10分)

地謡	藤波 重満	
	武田 尚浩	浅見 重好
	松木 千俊	金子 聡哉

19:30 能 杜若 (70分)

シテ (杜若の精)	下平 克宏	
ワキ (旅僧)	殿田 謙吉	
後見	藤波 重満	藤波 重彦
笛	寺井 宏明	
小鼓	幸 信吾	
大鼓	柿原 光博	
太鼓	徳田 宗久	
地謡	浅見 重好	大松 洋一
	木原 康之	藤波 重孝
	小檜山浩二	新江 和人

20:40 終演